

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2025年10月分)

ご協力ありがとうございました。2025年10月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 141 回答 128 回答率 90.8%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	13社	18社	55社	24社	18社	128社
	10.2%	14.1%	43.0%	18.8%	14.1%	
	(10.9)	(15.6)	(39.8)	(18.8)	(14.8)	
売上高	10社	17社	49社	29社	23社	128社
	7.8%	13.3%	38.3%	22.7%	18.0%	
	(10.2)	(11.7)	(38.3)	(17.2)	(22.7)	
在庫数量	3社	17社	60社	29社	13社	122社
	2.5%	13.9%	49.2%	23.8%	10.7%	
	(5.7)	(10.7)	(48.4)	(24.6)	(10.7)	
販売単価	3社	13社	59社	44社	7社	126社
	2.4%	10.3%	46.8%	34.9%	5.6%	
	(0.8)	(7.1)	(45.2)	(41.3)	(5.6)	
収益状況 (粗利)	6社	25社	42社	44社	10社	127社
	4.7%	19.7%	33.1%	34.6%	7.9%	
	(8.7)	(15.0)	(40.2)	(25.2)	(11.0)	
稼働率 (生産・加工設備)	3社	16社	55社	27社	8社	109社
	2.8%	14.7%	50.5%	24.8%	7.3%	
	(3.6)	(16.1)	(49.1)	(20.5)	(10.7)	
入出庫の トラック台数	3社	14社	69社	30社	8社	124社
	2.4%	11.3%	55.6%	24.2%	6.5%	
	(4.0)	(15.3)	(47.6)	(23.4)	(9.7)	
現在の 景況感	1社	6社	58社	41社	20社	126社
	0.8%	4.8%	46.0%	32.5%	15.9%	
	(0.8)	(5.5)	(36.2)	(30.7)	(26.8)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	6社	85社	31社	4社	126社
	0.0%	4.8%	67.5%	24.6%	3.2%	
	(0.0)	(8.7)	(67.7)	(19.7)	(3.9)	
特記事項						

注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(2025年10月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置きます。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 需要動向は変わらず低迷継続。前月（9月）はスポット物件が拾えたお陰で、前年同月をやや上回ったが、10月はまた前年同月を下回る結果になった。やはり続かなかった。
- ② 10月も全体的には前年並みの水準を維持し、底堅い動きが続いた。店売り分野は依然として需要・価格ともに軟調だが、下げ止まりの兆しも見られる。紐付き分野ではトラック関連を中心に堅調な動きが続き、全体を下支え。加工賃是正の流れも徐々に浸透しており、今後の改善に期待したい。
- ③ 各産業鈍いといいつつも、稼働日見合いにより販売数量増。また、一部歯抜けも散見された。

中板

- ① 中板においては需要に目立った変化は無く、建築関連・建機関連も低位横ばい。店売りは相変わらず小口当用買いに徹しており荷動きは冴えない状況が続く。市況は弱含みの横這いで、引き合い毎に底値を探る展開。

厚板

- ① <全体感>各分野とも需要は停滞しており、下期に入っても相変わらず低調な状態が続いている。紐付きはもとより、物件案件関連も停滞しており荷動きは鈍いままとなっている。
<分野別>建産機においては関税に加えて円安の関係もあり、輸出向けが苦戦。生産計画は引き続き低位横ばいの計画に変わりはない。建産機とも機種別でも大型分野が特に厳しく、汎用機種の生産が中心となっており、自ずと売上も伸びてこない状況である。店売りは建築、土木分野の低迷により引き合いは少なく、若干まとまった物件では思い切った価格も出てきていることで市況も下降気味である。
- ② 建設機械は輸出向けの不透明感から、減産も顕著で売上も減少している。店売り関連は鋼材の高騰や人手不足の影響で、売上も減少している。
- ③ 橋梁免震は数量的に前月とほぼ変わらず低調のままで推移している。店売りも前月同様には引き合いがない状態が続いている。

一般形鋼・H形鋼

- ① 需要無きコスト高によるものかもしれないが、メーカー値上げは待ったなし。悪い理由ばかり言っている事業継続につながるはずもなく、採算確保は流通の姿勢次第。
- ② 職人不足により前工程が遅れていて、現場全てが遅れている。予算や契約の見直しがある。
- ③ 建設なら元請け、製造業なら発注元に仕事がないので、販売先である二次、三次の下請けは受注減、売上減に喘いでいる。この傾向は年末年始や年度末頃まで顕在化し、市況も軟化を伴うのでは。造船の復活は未だ先である。
- ④ 建築、土木は人手不足、需要低迷のため、厳しい状況は続くが、流通としてはメーカーの値上げ製品が入荷する前に価格を上げたいところ。安値払拭を図り収益改善に努める。

異形棒鋼

- ① 荷動き低調は続いており、採算的にはかなり厳しい環境にある。これ以上不振が深刻化すると、経費をカバーできなくなる。

平鋼

- ① 10月の倉出し出荷は、9月末に平鋼メーカーが値上げの意向を新聞発表したため、多少の在庫補充はあったが、全体的な盛り上がりには欠ける結果となった。特に社内加工品については、一つ一つの案件が少量で細かいため、加工実績が伸びず工場の受注残がかなり少なくなっている。11月12月の加工残も少ないので、引き続き情報収集をしていく。
- ② 荷動きは夏場に比べ増加。秋需は感じられないが、最悪期は脱したようだ。価格もこれから値上げせざるを得ず、需要増に期待。

軽量形鋼

- ① 終了間際の大型物件が終了すると、閑散期に入る。2026年後半までは仕事が少なそう。中小物件も先々不透明のため、各メーカー取り合いになりつつあり、価格が下がりつつある。
- ② 前月、前年と比較すると、若干ジリ貧ではあるものの、年末、年度末まで極端な落込みはないと思われる。

鋼管

- ① 出荷量は9月と変化なく、10月としては非常に悪い状況であった。価格に大きな乱れはないが、どの品種も不調であり、先行きも大きな期待は持てそうもない。

構造用鋼

- ① 需要は総じて低位横ばい。自動車関連は中部地区では堅調も、他はさえない。建機は計画の下方修正や在庫調整により低位。産機も横ばいの状況。店売りの荷動きは、低位横ばい状態が続いている。在庫は大きく変わらず適正数量。価格はスポット対応で安値も見られるが下げ渋りの状態。

磨棒鋼

- ① 日米相互関税の決着から、需要の回復を期待していたものの、現在のところ大きな変化はなく、極めて低調な状況が続いている。自動車は、一社以外は回復の兆しもなく冷え込んだまま。店売りは若干の回復が見られるが、継続性は期待できない。

その他

<敷鉄板リース>

- ① 敷鉄板リースに関しては、90%以上の高い稼働率を維持している。

<スクラップ>

- ① プライスリーダー的電炉メーカーのスクラップ価格が、6ヶ月振りに上昇した。直近1ヶ月で約2,500円の上昇で、その間の下げ発表分を相殺すると約1,500円の上昇。ただし、今回の上げは需給バランスによるものではなく、為替要因が大きいとみられる。11月の関東地区メーカーの粗鋼生産は減少見込みを伝えられており、加えて海外市況も軟調。11月にかけては、横ばい、またはやや弱含みの展開もあるのではと予想している。

<金属表面処理>

- ① 10月は紐付き、物件物ともに計画通り。スポットは予想以上に扱い量が増え、前月比20%増となる。11月も紐付きがベースとなり、安定操業を維持出来そうである。